

ガーナ旅行報告

2004-9-8

阿部哲夫

スマイル会

6月19日から29日までの11日間、アフリカのガーナに行ってきた。

直接のきっかけは、我々のメンバーの一人、浅井和子さんが大使としてガーナに赴任され、一時帰国された際の報告会で、ガーナに来るようにとお誘いを受けたことでした。

小生、それまでアフリカには行ったことがなく、一回は行ってみたいなと思っていました。それまでの経験で、我々凡人は、ある地域のことは実際に行ってみない限り分からない、とっていたからです。

それにガーナに行こうかと考えて色々調べ始めると、アフリカの情報は恐ろしく少ないことが分かりました。旅行代理店などに行ってもアフリカの資料は極限られており、あったとしても観光地として有名になっているケニア、南アフリカ、エジプト程度しかないのです。図書館などで調べてみても、アフリカ関係の資料は少なく、ましてガーナなどに関する情報はないに等しい感じでした。

(ただ小生の住んでいる近隣の図書館で資料集めをして感じたことは、最近の図書館スタッフのサービス精神と能力の向上でした。昔公立図書館などで働いている人々は、ライブラリアンと云うよりは、お役人という感じの人々の方が多かったように思うのです。ところが今回情報の収集で手伝ってくれた人々は、皆有能で親切な人たちでした。気持ちの良い発見でしたので、特にご紹介しておきます)

乏しいは乏しいなりに情報を集めてみると、それはそれなりにガーナについてのイメージが、浮き上がってきました。

イギリスの植民地にされる前のアシャンティ王国、植民地時代のゴールドコースト、戦後ブラックアフリカ最初の独立国となった国・ガーナ、そうしたイメージが漠然とではありましたが、訪問前に出来上がりました。

渡航を決めた後の最初のハードルは、旅行計画立をアレンジしてくれる旅行代理店を見つけることでした。先に触れたように、所謂大手の代理店には、アフリカに力を注いでいるところは皆無でした。あるとしても、極小さな所でした。大手は小さいところには戦力を回せないのです。改めて世の中上手く調整されているなと感じたことでした。

次に今までの海外旅行で経験したことがなかった初めてのことは、黄熱病の予防注射でした。黄熱病等という病気は、小生には全く関係のないものでした。ガーナに行くのであれば、黄熱病の予防注射が要りますと言われて、そう言えば野口英世が罹って死んだのが黄熱病だったなあ、彼が死んだのはガーナだったのか、等と改めて思い出したりしたのです。

黄熱病の予防注射は、東京駅八重洲口近くの東京検疫所でしてもらいました。中年の無愛想な看護婦に注射されました。最近大抵の医療機関では、患者様と云ったりしてバカ丁寧な呼び方が一般的です。こうして風潮にならされているせいか、久しぶりに懐かしい横柄な医療人に会った感じがしました。

代理店から、こうした書類に書き込んで下さいと言われて、ガーナ政府指定の用紙を完成し、提出しました。発展途上国では役所が力を持っていて、人々に過剰なペーパーワークをさせるのだな、と改めて驚かされました。

日本も依然役人が力を持ち過ぎていると感じていましたが、ガーナに比べると、日本もましになってきているな、と思わされました。

こんなことを経験しながら、ついに2004年6月19日アムステルダム経由のルートで、ガーナの首都アクラに飛び立ちました。

アクラに行くルートとしては、アムステルダム経由、ロンドン経由等があり、また航空会社としては英国航空、KLM 等があるようです。最近になってドバイ経由のルートが開設されたそうです。

11.5時間でアムステルダム着、そこで一泊、翌日6月20日アムステルダムから6.5時間かけてアクラに到着、二日がかりの空の旅は終わりました。アムステルダムからの乗客はほとんど黒人。少人数の白人はいましたが、黄色人種等は見かけなかったように思います。

こうしてガーナの旅は始まりました。

ガーナでの旅は予想以上に面白いものでした。正に百聞は一見にしかずでした。

最初に見たこと、聞いたことを“詳報”としてご報告します。

次いであれこれ感じたこと・考えたことを“考えたこと”としてご紹介したいと思います。